

現場百景



潜水士は測量の手伝い、海中、海上の溶接をしていた。



多くのカモメが現場に「落し物」をしていた。作業も大変だ。



水揚げされた魚をさばく市場の方々。



杭の位置を正確に計測する作業員。工事の肝でもある。

全国有数のアジ・サバ水揚げを誇る松浦魚市場のある調川港ですが、まき網船の大型化や、大中型まき網船と小型まき網船の競合により係留スペースが不足しています。調川港港整備交付金事業では、浮棧橋2基および泊地を整備することで、水揚げ機能を向上させ水産業の振興を図ります。



調川港港整備交付金工事
 工事概要
 浮棧橋1基(据付工事)
 寸法:長さ70m×幅25m



小島健一
 「見学家」土木工事現場、産業遺産や工場などを、紹介用に「エッセイ」や書籍などで紹介。2011年10月から3年間、長崎の離島「池島」で地域おこしを行い、長崎大学の研究員を経て、現在は鹿児島県の入来麓武家屋敷群で地域振興の芽を探している。著書に「社会科見学に行こうー」、「ニッポン地下観光ガイド」などがある。

この港は、新しい浮棧橋を皮切りに段階的に市場全体の改修を進め、より活き活きの魚をさらに多く国内外に届けていくとのこと。今後、長崎のおいしい魚が全国で食べられる機会はさらに増えるだろう。

現場では、新しい浮棧橋を皮切りに段階的に市場全体の改修を進め、より活き活きの魚をさらに多く国内外に届けていくとのこと。今後、長崎のおいしい魚が全国で食べられる機会はさらに増えるだろう。

少し春めいた2月下旬、松浦市の調川港にある魚市場を訪れた。この魚市場はアジ・サバなど青魚の取扱量が全国トップクラスで、県内の重要な水産拠点でもある。しかし、開場から40年近く経ち、市場が老朽化していることに加え、着岸するまき網船が大型化しているため、新しく陸揚げする施設が必要となった。そこでこの度2基の浮棧橋が新設されることになり、その一基目の工事を見てきたのだ。

現場には近くで水揚げされた魚の「おこぼれ」を貰おうとカモメが近くを飛び交っていた。現地工事は1月30日から開始。まだ一ヶ月も経っていないが、すでに係留杭は設置されており、この日は杭の測量や海中での溶接が行われていた。そして、3月中旬には完成するのだという。

現地工事は実に2ヶ月。実作業が短く、港を長期間専有することなく速やかに施工できるのが浮棧橋工事の特徴だ。ただ、作業は海上もしくは海中で行うため、波や風の影響をどうしても受けてしまう。しかし、工事に誤差があると浮棧橋はうまく機能しない。この現場ではプラスマイナス数センチメートルの精度を求められており、そのため何度も何度も測量しながら誤差のないよう仕上げるそうだ。短期間の工事だけに、作業する方々の技術や連携力があってこそ成し遂げられるのだろう。

調川港浮棧橋据付工事